

- 問1 牛やぶた、にわとりなどを飼って、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を何とといいますか。
- 問2 農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を何とといいますか。
- 問3 農家が収穫したお米を、市場などを通さずに消費者のもとへ直接送る販売方法を何とといいますか。
- 問4 農家の人々が集まって、農業のやり方を教え合ったり、農作物をまとめて売ったりする組織のことを何とといいますか。
- 問5 大陸だなの近くでは、なぜよい漁場ができるのですか。
- 問6 夏の涼しい気候などを利用して、野菜の育つ時期を普通よりも「遅らせて」栽培する方法を何とといいますか。
- 問7 漁港の近くに建てられている、水揚げされた魚を競りにかけるための施設を何とといいますか。
- 問8 暖流と寒流がぶつかり、よい漁場となっているところを何とといいますか。
- 問9 暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多く、よい漁場となっている浅い海底のことを何とといいますか。
- 問10 生産者が育てた野菜や果物を、スーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、お客さんに直接売る場所を何とといいますか。
- 問11 漁港の近くに「加工工場」があることで、どのような良さがありますか。
- 問12 畜産のなかでも、特に乳牛を飼育し、牛乳やバターなどを生産する仕事を何とといいますか。
- 問13 ビニールハウスなどの施設とあたたかい気候を利用して、ふつうよりも早い時期に野菜をつくり出荷する栽培方法を何とといいますか。
- 問14 昔と比べて魚の生産量が減っている中で、養殖漁業がさかんに行われるようになった一番の理由は何ですか。
- 問15 魚市場で行われる「せり」には、どのような役割がありますか。
- 問16 栽培漁業において、わざわざ稚魚を育ててから自然の中へ「放流」するのはなぜですか。
- 問17 国や自治体が、魚の量や期間を制限するような「漁獲規制」を行う一番の目的は何ですか。
- 問18 長野県や群馬県などの涼しい地域で、夏の涼しい気候をいかしてキャベツやレタスを育てる主な目的は何ですか。
- 問19 遠洋漁業の生産量が、1970年代から大きく減り続けている主な理由は何ですか。
- 問20 群馬県や長野県の高原地域で、夏から秋にかけてキャベツやレタスをたくさん出荷しているのは、なぜですか。

答え合わせ・解説 No.3

問1	答え 畜産	牛やぶた、にわとりなどの家畜を飼育して、肉や牛乳、卵などを生産する仕事を畜産といいます。
問2	答え 有機栽培	農薬や化学肥料にたよらないで行う栽培方法を有機栽培といいます。
問3	答え 産地直送	生産者が育てた作物を、市場や問屋を通さずに消費者に直接届ける仕組みを「産地直送」といいます。間にはさまる業者を減らすことで、新鮮な状態のまま消費者に届けたり、生産者の顔が見えて安心感を持ってもらえたりするなどの良い点があります。
問4	答え 農業協同組合	農業協同組合（JA）は、農家同士が協力して農業経営を良くしていくための組織です。共同で肥料などの材料を買ったり、育てた作物を販売したりすることで、個人の農家だけでは難しい活動を支え、地域の農業全体を発展させる役割を担っています。
問5	答え 暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多いため。	大陸だなは浅い海底で、暖流や寒流が近くを流れることで海そうやプランクトンが多くなり、魚が集まるよい漁場になります。
問6	答え 抑制栽培	抑制栽培は、標高の高い涼しい地域などを利用して、野菜の収穫時期を普通よりも遅らせる栽培方法です。他の地域で野菜がとれない時期に出荷できるため、高い値段で売ることができます。これに対して、ビニールハウスなどで温めて普通より早く育てる方法は「促成栽培」といいます。
問7	答え 魚市場	獲れたばかりの魚が集められ、値段を決める「競り（せり）」が行われる場所のことです。ここで決まった魚が、日本各地のスーパーやお店へ運ばれていきます。
問8	答え 潮目	あたたかい海流（暖流）と冷たい海流（寒流）がぶつかり、よい漁場となっている場所を「潮目」といいます。
問9	答え 大陸だな	暖流や寒流が近くを流れ、海そうやプランクトンが多くてよい漁場となっている浅い海底を「大陸だな」といいます。
問10	答え 直売所	生産者が自分で育てた農産物を、卸売市場やスーパーマーケットなどの間に入るお店を通さずに、消費者に直接売る場所を「直売所」といいます。収穫したばかりの新鮮なものが手に入ることや、生産者の顔が見える安心感があることが大きな特徴です。
問11	答え 獲った魚を新鮮なうちに加工して、製品として売ることができる	獲った魚をすぐに加工することで、保存がきくようにしたり、料理しやすくしたりできます。このように工夫することで、魚の価値を高め、おいしい状態で全国に届けることができます。
問12	答え 酪農	畜産のうち、特に乳牛を飼って牛乳やバター、チーズなどの乳製品を生産する仕事を酪農といいます。
問13	答え 促成栽培	あたたかい気候やビニールハウスを利用して、野菜を早い時期に育てて出荷する方法を促成栽培といいます。
問14	答え 魚を計画的に育てて、安定してとどけるため	とる漁業だけでは魚の数が足りなくなってしまうこともあるため、施設を利用して自分たちで計画的に育てることで、いつでも安心して魚を食べられるようにするのが養殖漁業の大切な役割です。
問15	答え 買い手と値段を決めること	せりは、漁業者が持ってきた魚に対して、買い手が希望する値段を出し合い、最終的に誰がいくらで買うかを決める仕組みです。この仕組みがあるおかげで、魚の値段が公正に決まり、スムーズに各地へ運ばれていくことができます。
問16	答え 魚が小さいうちに食べられないように守り、漁業資源を増やすため	稚魚の時期は他の魚に食べられやすく、自然のままでは生き残る数が少ないことがあります。そのため、施設で安全に大きく育ててから放流することで、海や川にいる魚の数を効率よく増やし、安定して漁獲できるようにしています。
問17	答え 将来にわたって魚をとり続けるため	一度にたくさんの魚をとってしまうと、魚が十分に育ったり増えたりする前にいなくなってしまうかもしれません。将来もずっと安定して魚をとれるように、今とる量を調整して、海にいる魚の数を守ることがこの取り組みの大切な理由です。
問18	答え 本来の旬とはちがう時期に出荷して一年中食べられるようにするため	夏の涼しい気候を利用して、ふつうの地域では野菜が育ちにくい時期に栽培することを「抑制栽培（よくせいさいばい）」といいます。これにより、本来の旬とはちがう夏の間にも、新鮮なキャベツやレタスを消費者に届けることができます。
問19	答え 排他的経済水域の取り決めなどができたため。	遠洋漁業は、排他的経済水域の取り決めなどができたことにより、遠くの海で自由に漁ができなくなったため、1970年代から生産量が大きく減り続けています。

問20 答え

すずしい気候を好む野菜を、夏に育てることができるから

平地では夏に気温が高くなりすぎて、レタスなどのすずしい気候を好む野菜はうまく育ちません。そこで、夏でもすずしい高原地域を利用することで、夏の時期に新鮮な野菜を全国へ届けることができます。
